

## 第5回文京区アカデミー推進協議会 議事録

日 時	平成27年10月23日(金) 18:30~20:30
会 場	文京シビックセンター24階 文京区議会 第一委員会室
委 員	会 長 水越 伸 (東京大学教授)
	副会長 久松 佳彰 (東洋大学教授)
	委 員 青木 和浩 (順天堂大学准教授)
	委 員 野口 洋平 (杏林大学准教授)
	委 員 田中 雅文 (日本女子大学教授)
	委 員 金輪 精梧 (文京区町会連合会 副会長)
	委 員 田中 ひとみ (文京区女性団体連絡会 広報部長)
	委 員 上田 武司 (文京区商店街連合会 副会長)
	委 員 鈴木 秀昭 (東京商工会議所文京支部 事務局長)
	委 員 天野 亨 (文京区心身障害者福祉団体連合会 理事)
	委 員 三谷 規子 (文京区青少年委員会)
	委 員 鴻瀬 太郎 (小学校PTA連合会 会長)
	委 員 三浦 徹 (中学校PTA連合会 理事)
	委 員 柳澤 愈 (文京アカデミア学習推進関係委員会、文京区アカデミア講座企画委員会 委員長)
	委 員 塩見 美奈子 (文京区生涯学習サークル連絡会 会長)
	委 員 井上 充代 (文京区スポーツ推進委員会 副会長)
	委 員 田辺 武之 (文京区体育協会 副理事長)
	委 員 高澤 芳郎 (シエナ・ウインド・オーケストラ 事務局長)
	委 員 牧野 恒良 (公益社団法人宝生会 事務局長)
	委 員 白井 圭子 (文京区観光協会 副会長)
	委 員 荒木 時雄 (公益財団法人東京観光財団 常任理事)
	委 員 佃 吉一 (公益財団法人アジア学生文化協会 常任理事)
	委 員 森岡 隆 (文京区国際交流フェスタ実行委員会 委員長)
	委 員 小林 博 (区民公募委員)
	委 員 増田 純 (区民公募委員)
	委 員 金坂 吉雅 (区民公募委員)
	委 員 黒木 美芳 (区民公募委員)
	委 員 黒田 千恵子 (区民公募委員)
	委 員 松井 良泰 (公益財団法人文京アカデミー 事務局長)
	委 員 小野澤 勝美 (アカデミー推進部長)
欠 席	委 員 春田 孝二郎 (文京区高齢者クラブ連合会 副会長)
	委 員 平井 宥慶 (文京区民生委員・児童委員協議会 会長)
事務局	山崎 克己 (アカデミー推進部アカデミー推進課長)

熱田 直道 (アカデミー推進部観光・国際担当課長兼オリンピック・パラリンピック推進担当課長)

細矢 剛史 (アカデミー推進部スポーツ振興課長)

福田 昭正 (アカデミー推進部アカデミー推進係長)

山本 恵美子 (アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック調整担当)

支援事業者 株式会社創建 大谷・氏原

資 料 資料第1号 アカデミー推進計画 素案(案)

## 議 事

### 1. 開 会

### 2. 議 題

#### (1)アカデミー推進計画 素案(案)・総論について

事務局より、素案(案)の総論について説明を行った。

水越会長 気づいたことがあれば、細かいことでもよいので、意見をいただきたい。

水越会長 計画書はカラーで発行されるのか。

事務局 そうだ。

田中委員 共通目標の4つはすべて一段落で書いてはどうか。

黒田委員 素案5頁の冒頭で「人づくり」が太字で強調されているが、「人と人とのつながり」の方を強調するべきではないか。

事務局 そのように修正する。

久松副会長 「人材育成」と「人づくり」という言葉が混在しているので、どちらかに統一するべきだ。あと5頁の共通目標1で使われている「学習資源」という言葉の意味が分からない。また「レガシー(資産)」という表記があるが、「資産」ではなく「遺産」だと思う。「資産」と表現したい気持ちは分かるが、いかがかと思う。

田中委員 漢数字と数字が混ざっているので、章番号は漢数字に統一されるとよい。また、6頁の図で共通目標が円状に並べられているが、左回りよりも、右回りに順番に並べる方が見やすいと思う。あと、文字は図形のスペースのなかに収めるようにデザインしてもらいたい。

水越会長 自分も右回りがよいと思う。文字と図形の収まりについては、難しければよいが、極力対応してもらいたい。

事務局 「学習資源」は一般的な言葉ではないが、大学などの施設を意図している。

久松副会長 言われれば分かるが、一般的ではないと思う。

水越会長 大学を学習資源とは言わないと思うので、再検討してもらいたい。これまでの意見のなかでは、「人材育成」か「人づくり」のどちらを選ぶかは大事なことだ。あと、「レガシー」については、東京都がそのような言葉づかいをしているのであればよいが、できれば日本語を使ってもらいたい。

小野澤委員 組織委員会の方針で「レガシー」という言葉を使おうとしている。ただ、日本語の注釈と

して「資産」とは言わないと思う。

久松副会長 「後々に残すもの」といった表現でもよいかもしいない。

黒木委員 正しく翻訳されない言葉だと思うが、たとえば「文化」という言葉を使うのはいかがか。

水越会長 オリンピック・パラリンピックで浮足立つのではなく、後々に残るものを大切にするべきだと思う。去年のアンケート調査でも結果が出たが、文京区民も後々のことに目が向いている。

野口委員 文部科学省では、「有益な遺産(レガシー)」という表現を用いている。それにならうのはどうか。

水越会長 「人材育成」と「人づくり」の選択についてはどうか。

田中委員 やわらかい表現の「人づくり」が望ましいと思う。人をつくるという表現に疑問を持たれるかもしれないが、まちづくりでは「人づくり」という言葉がよく使われる。一方、社会教育では「人材育成」が多い。

柳澤委員 「人づくり」と2回続くのは、表現としてくどいのではないか。

黒木委員 「人づくり」の方が、広がりがあるよ。

水越会長 「ひとづくり:豊かな暮らしを支える人材育成」がよいと思っている。6頁の図はどうか。

黒木委員 5つの分野が五角形で結ばれているが、となりの分野とだけつながっているように見える。全体的につながっている方がよいと思う。

田中委員 五角形よりも円で結んだ方がよいと思う。

## (2) アカデミー推進計画 素案(案)・5つの分野について

事務局より、素案(案)の各分野の内容について説明を行った。

水越会長 生涯学習分野とスポーツ分野について説明があったが、意見はいかがか。

天野委員 15 頁の内容に、来年4月に施行される障害者差別解消法への対応を加味してもらいたい。障害者差別解消法は、障害があることで差別されてはいけないという内容だが、学習活動に際しても一定の配慮が必要だと謳われている。合理的配慮というが、厚生労働省から指針が出されており、手話通訳や音訳から、車いす用に高さの調整できるテーブルも含まれている。行政においては義務とされていることもあり、ぜひ事業としてもらいたい。また、そのような配慮だけでなく、接遇においても工夫いただき、障害者が学習活動を行うことに対して施設としても前向きに受け入れる姿勢があることを示してもらいたい。

水越会長 法律に関することなので、今後の事業や施設運営のなかに取り込んでもらえればと思う。

田中委員 計画書だが、読み手にどれぐらい理解してもらいたいかにもよるが、用語説明が必要だと思う。あと、今後実施を検討する内容として、スポーツ分野に wi-fi 環境の整備が挙げられているが、スポーツ振興に必要なことなのか。

小野澤委員 文京区は屋外も含めて wi-fi 環境の整備を進めている。観光分野の方が似つかわしいが、学習施設も wi-fi の整備を進めている。

障害者の学習環境だが、文京区は、自治体のなかで最もはやく合理的配慮に取り組

んできているので、この計画でも記載する必要があると思う。

- 水越会長 横断的施策のなかに wi-fi 環境の整備は該当するだろう。東京都全体で進められていることか。
- 小野澤委員 東京都で wi-fi の通信方式が確定することを待っている。利便性を考え、文京区では東京都と同じ通信方式をとりたいと考えている。
- 久松副会長 29 頁に「バスケ」という記載があるが、正式名称を用いるべきだ。あと、ドッジビーやボッチャなどのスポーツは注釈を入れた方がよい。
- 水越会長 5つの分野を完全に統一することはできないと思うが、スポーツ分野の前置きが、他分野に比べて長いことが気になる。書くべき項目が多いから仕方がないかもしれないが、分量が多すぎる。なるべく簡素にしてもらえるとよい。
- 金坂委員 観光分野の基本的な方向性に「観光を通じた区内外のネットワーク環境の構築」とあるが、末尾の「ネットワーク環境の構築」という表現は不適切だと思う。
- 水越会長 たしかにハードウェアの印象を受ける。
- 黒田委員 文化芸術分野の事業(案)に、8mm・16mm フィルムのデジタル化が挙げられている。文京区はフィルムの保有数が多く、上映技士の資格を保有している人には貸出も行っているようだが、資格をとるための講座が開催されていない。機材は使えるので、文京区で資格をとるための講座を開催してもらいたい。他区に対するアピールにもなると思う。当面は区民が 8mm・16mm を楽しめるような取組をお願いしたい。
- 鈴木委員 文化芸術分野の今後実施を検討する内容として「日本の伝統・文化の良さを発信する能力・態度の育成事業」と書かれているが、「態度」という言葉が分かりにくい。
- 事務局 教育委員会会で実施を検討している名称らしい。アカデミー推進課の担当ではないので、変更することは難しいかもしれない。
- 水越会長 文京区のことを協議してきたので、日本文化と言われるとレベルが違うように感じる。別の部局が担当する事業は、その旨を明示してはどうか。
- 野口委員 観光分野の「現状と課題」の文章に数字が示されていない。訪日外国人は現時点で去年の数字を超えており、過去最高になる見込みだ。日本人の海外渡航よりも、外国からの訪日の方が多くなっている。インパクトのある数字なので、経済的側面だけでなく、機会が多くなっていることを数字で示した方がよい。
- 事務局 数字が分かるものについては追加したい。
- 水越会長 よろしく願いしたい。
- 荒木委員 観光分野の基本的方向の説明にて「人的な対応」という表現があるが、分かりにくい。また、観光分野における情報提供は、外国人が災害時に情報弱者になるため、外国人を含む旨を書いておいた方がよい。
- 事務局 対応する。
- 森岡委員 「文の京」にすべてルビがふられているが、冒頭だけで十分ではないか。
- 田中委員 国際交流分野の事業として「庁内留学 in Bunkyo」が挙げられているが、これは職員向けの語学研修を行い、言葉ができる人を外国人対応に充てるということか。
- 水越会長 その職員がいないと対応できないのであれば「マインド」の醸成とはいえないのではないか。庁内での取組だとは思いますが、計画の論旨にあっていないように思う。あと、観光

- 分野・国際交流分野で多言語対応に触れられているが、英語・中国語・韓国語でよいのか。福岡市や名古屋市ではポルトガル語やスペイン語が加わる。東京都の方針か。
- 事務局 そうだ。
- 水越会長 その他の言語についても、区民でスペイン語が堪能な人もいると思うので、そのような人材活用を考えるとよいと思う。3か国語を中心としつつ、それ以外の言葉も盛り込んでおいた方がよいと思う。
- 野口委員 「マインド」と括弧つきで表記されているが、どのような考え方からか。
- 久松副会長 校正時に自分が括弧をつけ、斜体にするように指摘していた。分科会で国際交流のハードルが高いという意見が出され、気楽に交流するマインドをつくっていこうという話になった。その点を強調するためだった。気楽に話しかけたり、受け入れたりする気持ちをもたせようとした。
- 水越会長 「心持ち」という注釈を加えてもよいかもしれない。
- 久松副会長 文化芸術分野の今後実施を検討する内容として「(仮称)文京まちあるき」の番組化が挙げられているが、同時に平成「文の京」名所図絵も挙げられている。これらの違いは何か。また、平成「文の京」名所図絵は観光で使用するものだと思うが、文化芸術分野でよいのか。このような分野を超えた事業の取り扱いは、考えた方がよいと思う。国際交流分野の外国人支援にあたる施策にも関連して、今後発行する冊子やリーフレットの多言語化は各分野で検討いただきたい。
- 水越会長 2点目の多言語化は必要だと思う。1点目の指摘もそのとおりだと思う。しかも記述も詳細すぎるので、ケーブルテレビで放送する番組を制作するという程度の記述でよいのではないか。横断的施策にも関わるものなので、事業としては残しておいてもらいたい。

### (3) アカデミー推進計画 素案(案)・横断的施策について

事務局より、素案(案)の横断的施策について説明を行った。

- 水越会長 横断的施策に今後検討する内容が記載されていないのはなぜか。分野をまたぐ施策は、分野別に整理できないと思うので、ここを受け皿にするとよいと思う。ただ、それだけでは消極的な印象になるので、ここで独自の提案もしてもらいたい。2～3項目でよいので検討いただきたい。
- 柳澤委員 情報に関しては、5つの分野以外の情報も受け取りたいと思うので、必ずしも限定しなくてよいのではないか。
- 事務局 承知した。
- 黒田委員 オリンピック・パラリンピックに関して、文京アカデミア講座が挙げられているが、内容が関連していない。内容についても検討してもらいたい。
- 水越会長 大事なものはレガシーを重視することだと思う。イベントを大々的に実施することではない。計画書の前半でもそのような文章が書かれているので、横断的施策においても踏襲してもらいたい。今書かれている内容は、協議会などで検討してきたことやアンケート調査結果とも違うので、再検討してもらいたい。

- 森岡委員 「まち」という言葉がつかわれているが、「街」の方が落ち着くと思う。
- 水越会長 どちらかに統一するかを考えるべきだが、「まち」と書いている意図もあると思うが、いかがか。
- 小野澤委員 行政文書では多くの場合、「まち」を使う。ハードとソフトの両面をあわせて表現しようとする意図もある。
- 水越会長 その意図は説明し、区民に理解してもらう必要があるだろう。そのような記述をしていくと、計画書としても充実するだろう。ところで、この協議会の役割について触れられているが、進行管理は行っていない。現行計画でも、その言葉は役割から外してもらいたいと意見を出していたと思う。一方、計画策定の支援をしているのに、それが示されていないことが気になる。協議会としてやっていることを書いてもらいたい。
- 黒木委員 「レガシー」という言葉が目立つ気がしている。共通目標は重要だとは思いますが、分野ごとに適応されている度合いが異なるように思う。
- 田中委員 質問だが、今回の資料では注釈が2か所ある。注釈をつける基準はあるのか。
- 水越会長 まだ基準はないと思う。注釈が充実すると親切でいいので、ぜひ検討いただきたい。

#### (4)その他

事務局より、今後のスケジュールについて説明を行った。

### 3. 閉 会

以上